

# 「陽成小学校の太鼓踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

薩摩川内市立陽成小学校

## 2 学年・人数

小学4年生から6年生（計8人）※中・高生・成人と合わせて26人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

平成29年7月27日～8月5日 午後7時～午後9時（陽成生き生きふれあい館）

### (2) 発表の日時・場所

平成29年8月6日（日）午後2時～午後4時 一條神社奉納  
（一條神社と歴史の杜境内）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### (1) 名称

陽成太鼓踊り（ようぜいたいこおどり）

### (2) 由来

島津義弘公の朝鮮出征の出陣祝いの踊りであるとか、又、凱旋祝いの踊りであるとか言われ、農村の気風を鼓舞するために薩摩藩が大いに奨励して踊らせたのもだと言い伝えられている。その後、農家が豊年万作を願う踊りとして引き継ぎ、稲や農作物がよく育つように水神や祖先の霊を慰め、作物の害をのがれるため、また、旱魃の雨ごいのためにと、五穀豊穰を祈願し踊りを奉納していると言われている。

### (3) 構成等

小太鼓2人、鐘8人、大太鼓16人で構成され、隊列を変形（4列縦隊、円、左右対称に蛇行しながら移動、渦巻き等）させながら踊る。衣装は、小太鼓と鐘は女装に似た姿で美しい花を飾った花笠をかぶり、大太鼓は長い竹に山鳥の羽根を付けたホロや色紙で飾ったトウチワと長い紙のシベを垂らした矢旗を背負い毛笠をかぶり神人化した姿で、喜び勇み芸を演じ跳び廻る勇壮な踊りである。

## 5 保存会や地域との連携の具体

定かではないが昭和の終わり頃までは、一条殿・都合・松岡の青年団を中心に伝承されてきたこの太鼓踊りであるが、同じように地区の氏神様であった南方神社（村社）の合祀を契機に由緒ある伝統芸能を絶やさないためにと約20年前（平成7年8月5日）に保存会が設立され校区全体で伝承することになり、現在も地区の氏神である一條神社で例祭日の八月八日前後の日曜日に奉納を行っている。

毎年、校区全体の小学5年生から青年までを保存会が中心となって指導し、この伝承に取り組むようになった。例年7月に希望者を募り、地区コミュニティセンター前のふれあい館で奉納前の2週間毎晩練習を行う。例年、小学5・6年生、中学生、高校生、青年の希望者が対象であったが、昨年からは参加者の減少等により小学4年生も参加するようになった。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

地区コミ協に保存会があり活動しているため、学校が直接指導や勧誘等をする必要はないが、参加対象学年の調整への助言や児童への声かけ、激励等で協力している。また、今年度からは、陽成こども教室（放課後子ども教室）に学校の教室を開放し、その中で保存会の講話や指導で連携している。

児童の「地域の伝統・文化（郷土芸能）を伝承していく」という思いを強くしているのは、先輩達の姿を見ているからである。それを後輩達が受け継いでいけるよう、先輩方の踊りを見に行くよう勧めたり、学校便り等でそれを児童に紹介したり、保護者や地域住民に積極的に広報している。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【一線神社での奉納】



【一線神社での奉納】



【一線神社での奉納】



【奉納前の記念撮影】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【4年生児童】

初めての太鼓踊りでしたが、やってみて初めて太鼓の重さを知りました。激しい動きの繰り返しで苦しかったけれど、最後まで踊り切れたのは多くの人の応援があったからです。地域の方の心遣いに感謝しています。

### 【6年生児童】

2回目の太鼓踊りでしたが、太鼓踊りをして声を出すことの大切さを知り、声を出すことで自信がわいてきました。これも地域の皆さんが親切に教えてくれたお陰です。とても感謝しています。伝統行事に参加できてとてもよい経験ができました。来年も是非やりたいです。

### 【地域の方から】

暑い中、大きな太鼓を担いでの踊りは大変だと思いました。それでも小さな体で頑張っている小学生の姿に、感動しました。私たちも、彼らに大きな元気をもらいました。本当に有り難う。

### 【保存会から】

若い人が減り、年々参加者も減る中で、小学生が頑張ってくれるのは本当に有り難いです。大人でも大変な激しい動きや大きな太鼓を背負っての踊りを、太鼓が大きく見えるほど体が小さな小学生も頑張ってくれることに、保存会としても感謝していますし、一地域住民として、とても有り難く思っています。